

年 度	番 号	部 門
1 5	3 8	特用林産

“ 福井の森の研究から ”



福井県総合グリーンセンター
林 業 試 験 部
0 7 7 6 - 6 7 - 0 0 0 2

選抜ウドの促成栽培技術の開発

総合グリーンセンターで選抜した優良なウド(福在来3号)の促成栽培について、付加価値を高める栽培法方の開発が強く望まれている。そこで、この選抜ウドに最適な促成栽培技術を開発したので、その結果を紹介する。

1. 試験の方法

(1) 根株の養成

武生市丸岡町の苗畑(砂壤土)で養成を行った。施肥管理は基肥として10a当たりバーディエース2号(N:P:K=10:8:8)100kg、パークミン(腐葉土)800kg、青森林業苗畑用高度複合肥料238号66kg施した。また、追肥は生育期に2回バーディエース2号を10a当たり窒素成分で7kg施し、除草は6、8月の2回行った。促成栽培に用いる根株は2年間養成し、生育休止期に掘り取った。

(2) 促成栽培

促成栽培は当センターのビニールハウス内で福井県7号、愛知白、福在来3号の3クローンをを用いて行った。また、休眠打破対策としてジベレリン50ppm液で処理した。根株はジベレリン処理区と無処理区に分け、温度管理は萌芽開始まで23℃、それ以降は18℃に設定し、定期的に茎の伸長を測定し、さらに太さ1.5cm以上、長さ30cm以上に達した茎を収穫の対象とし、各要素について測定した。

2. 結 果

(1) 根株の養成

草丈の生長推移を図-1に示す。茎の伸長量は養成期間全般を通じて愛知白、福在来3号ともにほぼ同様の値を示し、両クローン間に有意な差は認められなかった。特に、2回目の追肥以降の伸長が著しかった。

(2) 促成栽培

ジベレリン処理区の軟化茎の生長推移を図-2に示す。軟化茎が30cmの長さには伸長したのは、福井県7号が萌芽から31日目、福在来3号が46日目、愛知白が61日目であった。また、無処理区では愛知白以外は伸長が見られなかったことから3クローンとも休眠打破にはジベレリン処理効果が顕著であることが認められた。

ジベレリン処理区の1本当たりの平均収量を図-3に、軟化ウドの測定結果を表-1に示す。生産物の形状(茎の重さ、太さ、節間、葉柄の長さ等)は福在来3号が最も良好であった。また、茎の生長が巨大特性を示す福在来3号はジベレリン処理と加温により容易に促成栽培ができ、1株から100g以上の軟化茎が収穫できることがわかった。

3. 今後の課題

促成栽培の結果、ウドの葉柄が黒く変色し腐れが見られたため、原因を寒天培地により特定した結果、芽土の中にいる細菌「ウド疫病」であることが判明した。防除法として芽土は新しい土を使用し、伏せ込み時に銅・メタラキシル水和剤(800倍)に根株を瞬間浸漬する必要がある。

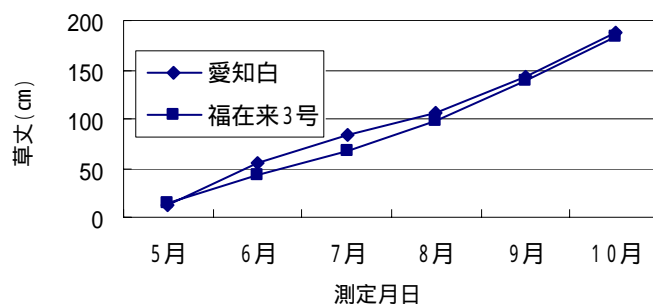


図 - 1 平均草丈の生長推移

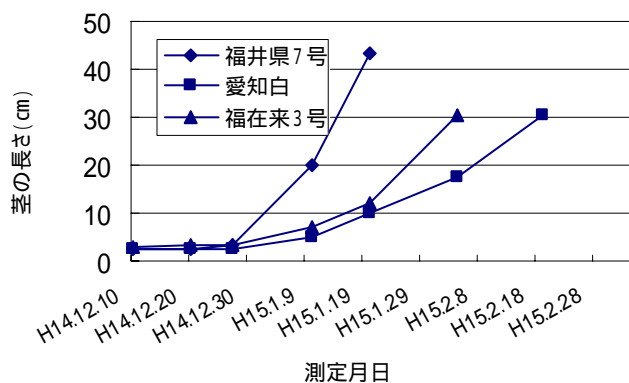


図 - 2 ジベレリン処理区の平均軟化茎の生長推移

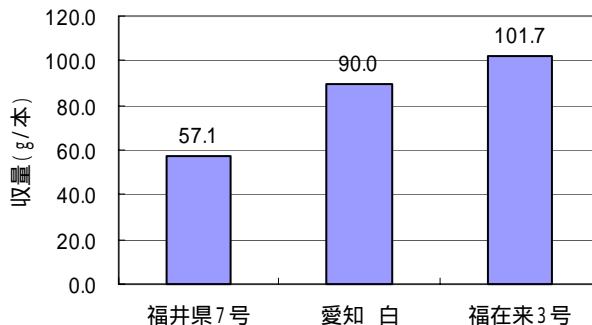


図 - 3 ジベレリン処理区の軟化茎1本当りの平均収量

表 - 1 促成栽培による軟化ウドの測定結果

クローン名	供試株数 (株)	収穫本数 (本)	生重量(g)	茎		節数(節)	節間長 (cm)	葉柄数 (枚)	葉柄長(cm)		
				長さ(cm)	太さ(cm)				Ave	Max	Min
福井県7号	10	26	57.1±23.8	36.6±6.7	1.7±0.3	4.8±0.9	10.8±4.7	4.3±0.8	8.4±3.4	21.5	2.0
愛知白	10	22	90.0±26.6	29.1±3.9	2.3±0.4	6.1±0.9	4.3±1.1	6.0±0.9	5.6±1.7	13.0	1.5
福在来3号	10	38	101.7±35.2	31.8±5.6	2.5±0.4	6.1±1.1	5.4±2.6	5.6±0.9	5.1±1.3	12.5	0.5